

鈴木正三・重成公ゆかりの天草を訪ねて 第5回目

天草と東海地方とのつながり

1. 東向寺住職・瑞岡珍牛大和尚について

1-1. 松栄山 東向寺

1-1-1 慶安2年(1649) 東向寺 竣工 開山、中華珪法禅師(山口 瑠璃光寺)

鈴木重成、鈴木正三が天草の安定と教化をはかるため、中華珪法禅師を開山に請す。

1-1-2 13世 瑞岡珍牛大和尚

- ・寛保3年(1743) 肥後国天草郡河内村 生まれ
- ・8歳で東向寺9世・靈泉恵照(れいせん えしょう)大和尚のもとで剃髪
- ・14歳から16歳までの3年間、長崎に遊学し絵画を学んだ。
- ・大宰府の観世音寺で戒学を学んだ。同窓生に豪潮。
- ・下関の笑山寺 海外亮天のもとで修行。
- ・東向寺の住職。
- ・寛政8年(1796)2月、松本の全久院へ転住。
- ・珍牛禅師は永平寺の玄透即中禅師のもとで古規則の復古を進めた。
- ・尾張十代藩主の徳川斉朝(とくがわ なりとも)公の帰依を受け、万松寺を退隠後は慶雲軒に迎えられ、後に別院(奉安殿護国院)に発展した。

1-2 復習

1-2-1 天草島原一揆から東向寺が創建されるまで。

- ・寛永14年(1637)天草と島原で一揆
- ・松平伊豆守信綱は島原に向かう途中、大坂で鈴木重成公に同道を要請
- ・上方代官を勤めていた重成公は命に従い鉄砲奉行として同道
- ・寛永15年(1638)2月に原城が陥落し、天草島原の乱は終結
- ・乱終結後、重成公は島原特命代官の任。天草における役職はなし。
- ・荒廃した島原と天草を往復し、天草の復興計画をも練る。
- ・天草初代代官に着任する前年、天草地方では痘瘡(天然痘)が猛威。
- ・重成公は大江村を視察。すでに痘瘡に感染していた重成公の症状が悪化。
- ・大江八幡宮の宮司と娘が捨て身の看病。重成公は助かる。
- ・寛永18年(1641)重成公は幕府直轄地天草の初代代官に任命される。
- ・代官着任後、復興施策を矢継ぎ早に実行。
- ・天草に移民を誘致し、町村を再編し、年貢を免除し、寺院を建てる。
- ・天草島原一揆終結10年後 東向寺の建設が始まる。
- ・翌、慶安2年(1649)東向寺竣工。 開山 中華珪法(山口 瑠璃光寺より)